

資料 9-2

高田地区海岸砂浜再生事業 事業概要（1／2）

震災前の砂浜

白砂青松の名勝高田松原は、約350年前から先人たちが松の植林を行い、市民の手で育ててきたもので、自然景観と人工景観が織りなす、まさに陸前高田市の象徴とも言える存在であった。約2kmに広がる砂浜は、夏には多くの海水浴客（平成22年は約17万人）でにぎわい、松に囲まれた遊歩道は市民の憩いの場となっていた。



白砂青松の高田松原



夏の海水浴利用状況

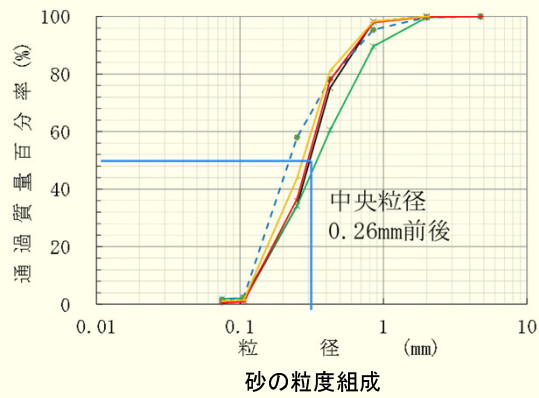


震災前の砂浜の幅（2003年）

高田海岸には、延長400m、幅60mの人工リーフが3基あり、海水浴は主に東側の3号リーフ背後で行われていた。

砂浜の幅は、30～60mとなっており、平均50mとなっている。

砂の粒度組成は、中央粒径が0.26mm前後であり、前浜の勾配は1/10～1/20で安定していた。



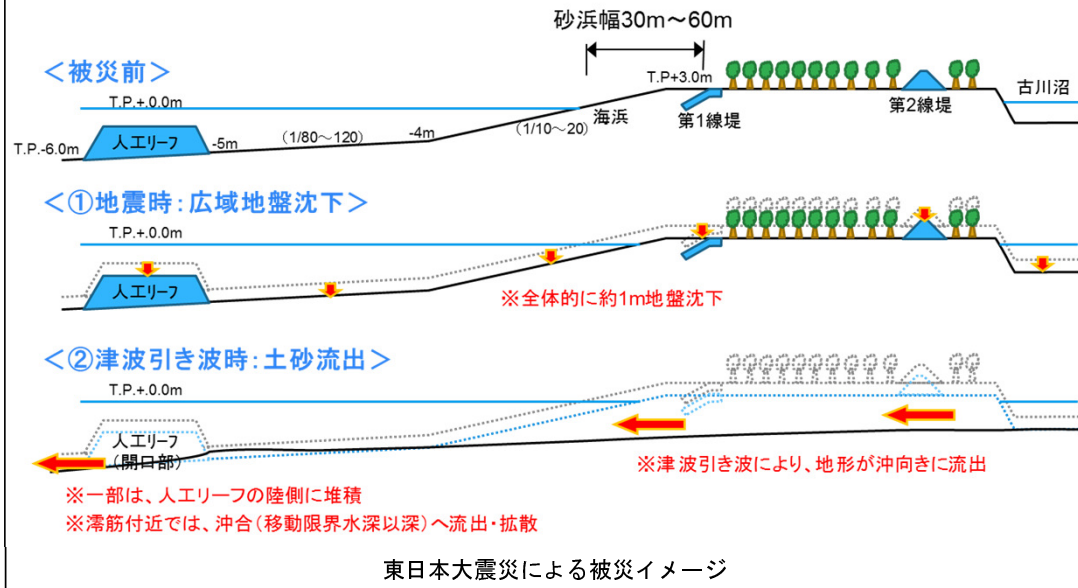
震災による被害状況

平成23年3月11日に発生した東日本大震災に伴う大津波により、高田松原の背後に広がっていた中心市街地は壊滅的な被害を受けた。

高田松原では、約7万本ともいわれた松林が「奇跡の一本松」を残してほとんどが流されたほか、砂浜も震災による地盤沈下と津波によりその9割が消失した。



震災直後の状況（平成23年3月29日撮影）



東日本大震災による被災イメージ

東日本大震災による地盤沈下と津波で流出した砂浜が自然に堆積するのは数百年を要すると推定される。

養浜工により砂浜の再生を目指す

高田地区海岸砂浜再生事業 事業概要（2／2）

養浜基本計画

県では、平成26年3月に高田地区海岸養浜技術検討委員会（委員長：田中仁東北大学大学院工学研究科教授、委員6人）を設立し、砂浜の回復（養浜）に向けた技術的検討を重ねた。平成27年1月に開催した第3回委員会において、養浜基本計画を取りまとめ、平成27年秋から試験施工を実施し、平成28年度には試験施工結果の経過観察と効果検証を行った。

平成29年10月から試験施工200mを含む延長1,000mの本格施工に着手している。

基本方針

- 目的：**高田松原の砂浜を回復させる。
- 目標：**震災前（直近の測量データがある2003年頃）の砂浜を回復目標とする。
※当時の砂浜の幅、勾配、粒径等を目指す
- 方法：**①養浜材料は、購入材を基本とする。
②現地由来の材料を有効活用する。
③養浜材料（砂）は、段階的に投入する。

養浜砂は、シルト分を除いた洗砂とし、粒径、色、量を条件に選定。

事業スケジュール

- ～H26：養浜技術検討委員会において養浜基本計画とりまとめ
- H27～28：試験施工の実施 施工延長200m（第2、第3工区各100m）
試験施工結果の経過観察、効果検証
第4回養浜技術検討委員会の開催
- H29～30：本格施工の実施 施工延長1,000m（第2工区700m, 第3工区300m）

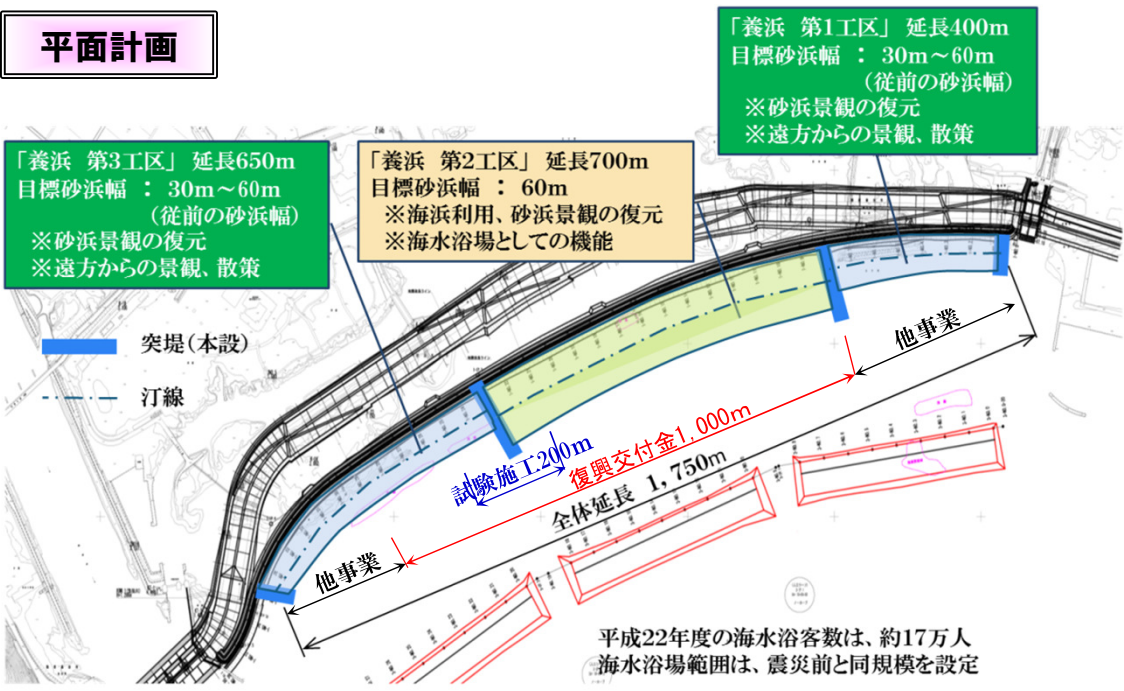


台風5号通過後の状況（H28.8.10）



現場見学会の様子（H28.8.6）

平面計画



横断計画

